

眞
送中徳茶毛古編

下

眞
茶

13
1164
66



1164
66

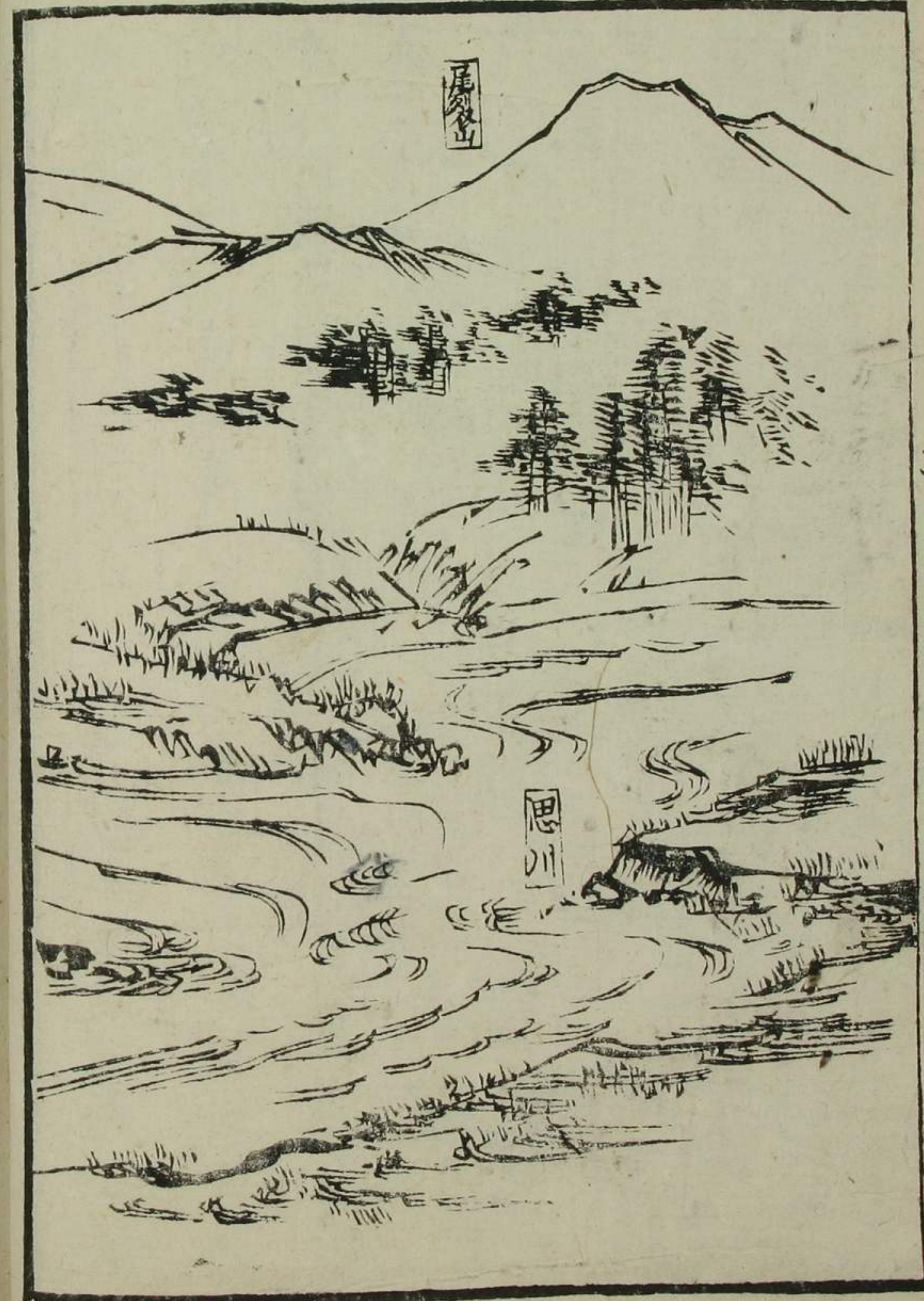
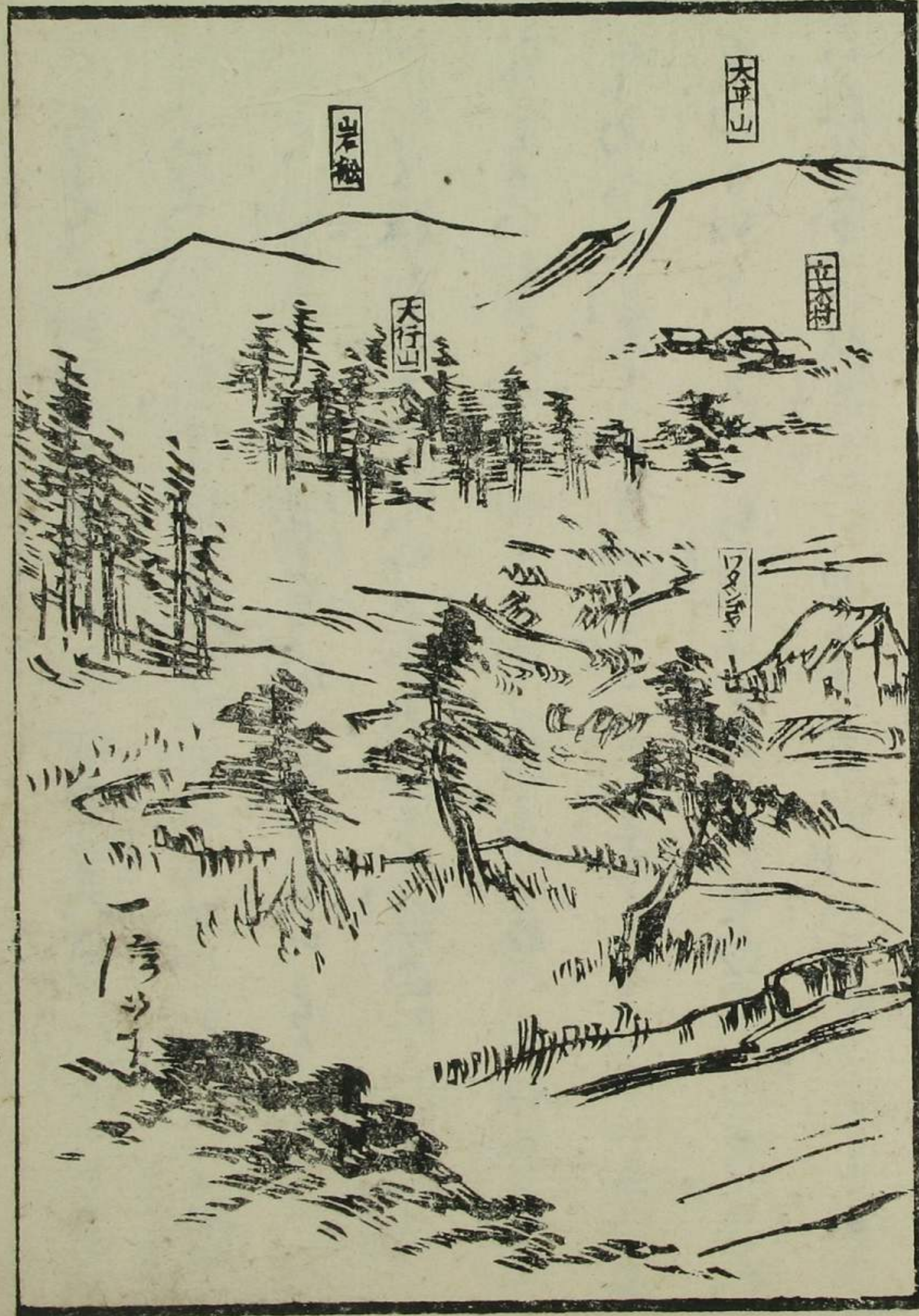
興
道中膝栗毛第五編卷之下

十返舎一九著



さても跡次郎吾衛ヤトシロウの中山宿おやまやある福松屋ふくまつやと海じをり
し隣座敷とりのりの騒動さわごうよりひせられし小八こやちやが顔死かおにしせ
しを幸さいわいふ金のつるぬあつと息いきせいのての〜
原末田舎はらすゑ質売しちうりのちやうちが中なかへ跡二弟あとに去清さきよが口車くちぐるまに
のち〜
賤布せんぷちやうちが懐中くわちゆう〜とまわるとまわる

のち〜



いよ〜 おもがあらんごころをぞら〜 狂言を金屋
 仕打が長きだしのぞく〜 あり〜 あり〜 あり〜
 十 宛にあらむやがもほんまのほむと〜
 目おめ〜 十おやあ〜 あり〜 あり〜
 ち〜 あり〜 あり〜 あり〜
 ら〜 あり〜 あり〜 あり〜
 ら〜 あり〜 あり〜 あり〜

中ウと男とてあま〜 あり〜 あり〜
 ござんを〜 あり〜 あり〜
 お〜 三十あふさうやアおあ人小半分あ〜
 男が〜 あり〜 あり〜
 る〜 あり〜 あり〜
 この〜 あり〜 あり〜
 「時〜 あり〜 あり〜
 あり〜 あり〜 あり〜



小山六藤原秀卿の孫なり此宿の下町ふ
 祇園天王あり住吉秀卿の館の内あり有けり
 別當六祇園山感應寺なり同所西の方
 持室寺と云寺の末にて真言宗なりと云



一修也



本寺八寺領十石感應寺八十五石なり
 宿の西の方ふ大門なる又宿の内ふ
 秀娘山現聲寺といふ寺なり
 秀卿の開基なり守神と熊野
 権現を祠る

小山城七月初七日ふ落城せしゆ
 この宿あり今に七夕の祝ひあり
 城山の入口ふ乱橋と云所あり一騎
 立の路あり落城の事此より
 破るなりと云

思案を流る
 ちりなり花の花

をねり
 糟成



子ねがふことを一番幸福とて子ねのうめつりので
 ろくどもねんが手紙イヤおあやうはんごりらお子ごの
 と付けいもくであめそわ〜と親達をよもうことせと
 それをふり〜〜の勘定でうんせ出る業でやう
 〜〜の交際のも〜と食ひちがひもむ〜と
 〜〜の酒飲どころでねん物伴ちあめねんを
 ふそんな鼻の〜思業せ〜と〜と〜と
 るる〜何れもあれ〜せとあけ〜ら〜

由金のねんふ勤まへてあめ人 一何とあんど〜とあま
 めつてせと〜とせと〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ろけ行の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 早〜と〜と先生達の跡を追てやう〜と
 人ちをふあ世後よあり中〜と〜と〜と〜と〜と
 んのあり中あ人の用がある〜と〜と〜と〜と〜と
 神田の〜下堀の証ひき〜と〜と〜と〜と〜と

奥羽道中膝栗毛第五編卷之下畢
 小記をみるん
 ひの滑稽ハ才六編の始め飯塚小りる道とて
 小ハ始終ふとろづれ中々、林次郎と云ふと
 くお暇くと主人の詞をうちけしと此宿を立出る
 おけぞと云ふとて、
 小ハ始終ふとろづれ中々、林次郎と云ふと

奥羽道中膝栗毛第五編卷之下畢

享和二年正月出版
 文化七年正月再刻
 明治十四年十一月補刻

著者 出版者

故人 十返舎一九
 東京府平民 江嶋伊兵衛
 日本橋區吳服町拾貳番地

發兌 東京本石町 江嶋喜兵衛
 同芝三島町 山中市兵衛
 大坂久太郎町 柳原喜兵衛
 名古屋本町 片野東四郎
 下總佐原 正文堂利兵衛

十返舎一九著 滑稽道中膝栗毛

東海道之部全十八冊
 本曾海道之部全廿五冊
 奥羽道中之部全十五冊

